

## ダブル・アクション式メインスタンド ウィークポイント R26-50-69S、/5-1984

1984年までのBMWのメイン・スタンドは車体下にすっぽり隠れる設計のため、スタンド操作が独特です。マフラーの下からチョットだけ顔を出しているバーを右足で押し下げスタンド本体を地面に接地させます。右足をスタンド本体のアームに踏み替えスタンド掛けします。つまりダブル・アクション式となっています。この理屈が判っていないとスタンドを降ろすためのバーでそのままスタンド掛けしようと頑張ってしまう。テコの原理が働かないので途轍もなく掛け難く、信じられないほど重いスタンドとなります。年式によってはとても細いバーのため簡単に曲がり、時に折れてしまいます。また転倒などで地面に引っ掛けるとバーは曲がり、スタンド掛けし難くなったり、きちんと収納できなくなり、時として走行中に路面凹凸の衝撃で下がって、火花を撒き散らしながら引きずることにもなります。

スタンド・バーが微妙にマフラーに当たる、バーが下がりすぎているのでバンクで接触するなどある場合は曲げ具合を修正できます。専用の工具としては鉄筋曲げ棒なるものもありますが大きなモンキーレンチやメガネレンチなどでも作業できます。



鉄筋曲げ棒 各サイズ



使い方例



R26-27用 左マフラーなので右に広がっている

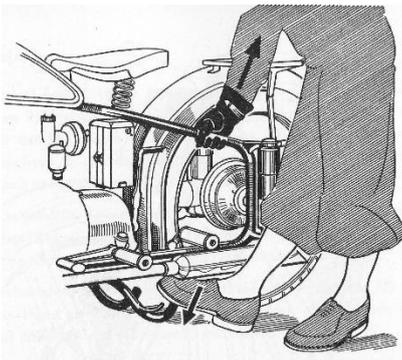


角度の調整はメガネレンチを使ってもできる(二刀流なら自由自在?)

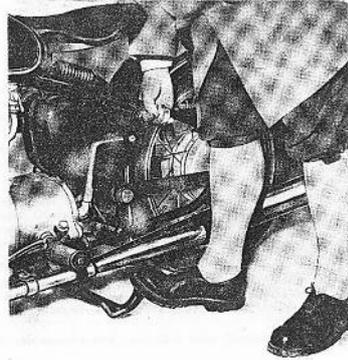
丈夫なバーが大きく曲がっている場合は溶接部分が剥がれる恐れがあるのでトーチで熱して徐々に様子を見ながら作業の方が失敗はありません。直火を使う場合はオイルや漏れ出たガソリンで火災になる恐れもあるのでスタンドを外しての作業になります。

CRIMECA

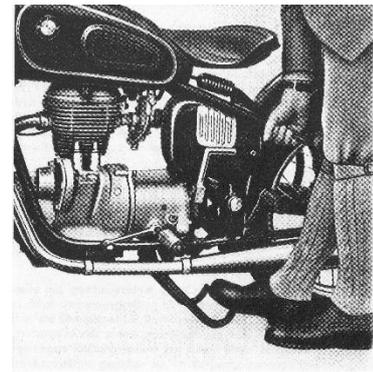
メイン・スタンドの掛け方イラスト (オーナーズマニュアルより)



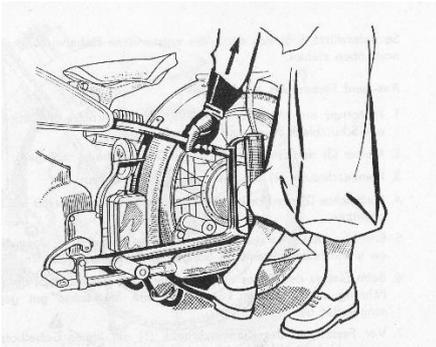
R25 (1950)



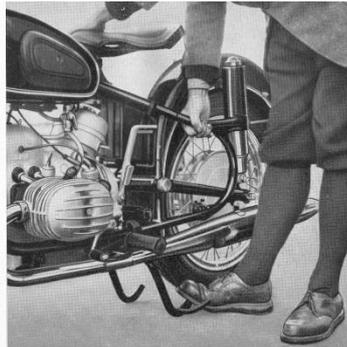
R26 (1955)



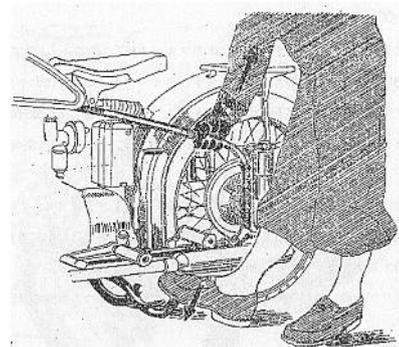
R27 (1960)



R51/3 (1951)



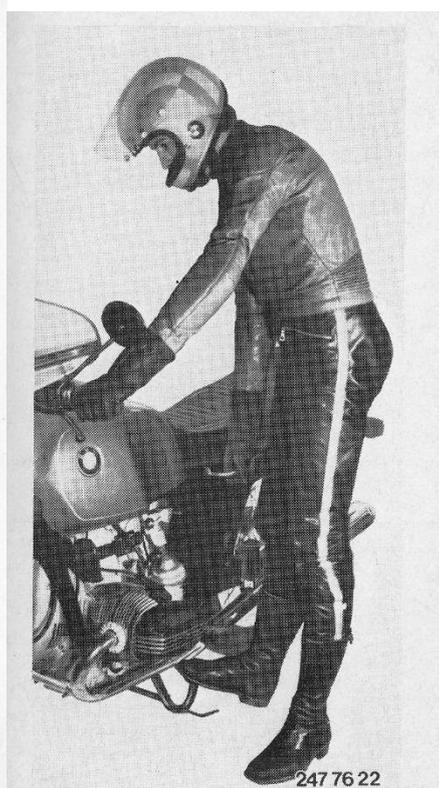
R50 (1955)



番外 DSK A25 (1953) サドルが異なる



R75/5 (1969)初期型サイドカバーなし R100S (1977) 2m級の巨人?



R80 モノレバー(1985)



1985年にリニューアルされたモノレバーシリーズになって独特のダブル・アクションは廃止され標準的な操作(踏み替え不要)になった。ただし、先行モデルの構造を踏襲しているのでスタンドを外した際、一旦スタンドが止まり、乗車して車高が下がると自動で戻る設計となっている。